

平成26年度 第4回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

日 時 : 平成27年2月17日（火）18:00～20:00

場 所 : 市役所第4庁舎4階 第6会議室

出席者 : 小松委員、高木委員、田中委員、大下委員、伊藤好子委員、杉村委員、松本委員、
齊藤委員、山崎委員、伊藤民子委員、宮津委員、巴委員、門倉委員

（事務局）渡邊教育長、原田総務部長、丹野教育環境整備推進室長、高梨職員部長、
芹澤学校教育部長、望月中学校給食推進室長、渡部生涯学習部長、
江間総合教育センター所長、川崎総務部担当課長（人権・共生教育担当）、
山科指導課担当課長（支援教育企画・調整担当）、上杉指導課担当課長（支援学校担当）、
栗山指導課担当課長（小中高等学校支援教育担当）、市川指導課担当課長（指導・調整）、
邊見健康教育課担当課長（学校給食）、杉本健康教育課担当課長（学校体育・安全）、
佐藤中原区・教育担当 担当課長、野本企画課長、岡野企画課担当課長ほか

傍聴者 : なし

司 会 : 野本企画課長

〔配布資料〕

資料1 川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画素案に
対するパブリックコメント手続の実施結果について（案）

資料2 第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画（案）

資料3 平成27年度教育費予算（案）概要・重点施策

資料4 平成26年度第3回川崎市教育改革推進協議会の摘録

参考資料1 川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱

参考資料2 川崎市教育改革推進協議会名簿

〔次第〕

1 開会

2 教育委員会あいさつ（教育長）

（協議題）

3 第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画（案）について 資料1、2
（報告）

4 平成27年度の教育委員会における取組について

資料3

協議題 第2次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画(案)について

(企画課長説明)

パブリックコメント実施結果概要、

プランの基本理念、基本目標及び計画全般に関することについて

- 委員 ・ 基本理念、基本目標に係る説明文について、意見を踏まえ修正したことで、より前向きな姿勢となる表現となり、よくなったと思う。
- 委員 ・ 計画名に「第2次」を追加したことは、計画の位置づけが明確になり、現在の第1次計画、そしてゆくゆくは第3次計画とのつながりがみえてよいと思う。
- 委員 ・ 「かわさき教育プラン」に基づくこれまでの取組の記載に、川崎高校定時制昼間部の設置を追加してほしい。

(企画課長説明)

基本政策ⅠからⅤについて

- 委員 ・ 数値目標についての意見は、必ず出る話。今後、定性的な評価も入れられるようにしてほしい。数値では表せないものをどのように評価していくか考えてもらいたい。
- 委員 ・ 数値で表せるものも、まだ十分に活かしていないところもある。今後は、更なる活用の充実を考えてもらいたい。
- 委員 ・ 既存の統計などの数値がなく、新たに数値を把握するための評価に係る経費は確保できているものなのか。
- 事務局 ・ まったく新しいものを調査するのは、現状では難しい状況である。市民アンケートなど既存の調査に項目を追加したりしている。
- 委員 ・ 全国学力・学習状況調査の結果はどのように活用、公表するのか。
- 事務局 ・ 全国学力・学習状況調査の活用は、十分に図る必要がある。各学校は、調査結果について考察や実態の分析をていねいに行い、子どもたちの状況を保護者と共有しながら、学力の向上に取り組んでいる。ただ、調査結果は学力の一部であり、学校間の競争、序列化につながるよう公表の雛形やモデル例を学校に示している。
- 委員 ・ 栄養教諭、学校栄養職員の配置の充実については、PTAでも聞こえてくる。色々と配慮されていると思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。
- 委員 ・ 海外帰国外国人生徒相談事業に関する高校進学について、支援に携わる市民がもっといとよい。
- 委員 ・ 市立高等学校改革推進計画 第2次計画について、第1次計画の検証を行うのであれば、事業計画の記載について、「検討」だけでなく、「検証」という言葉を入れてほしい。
- 委員 ・ 特別教育推進事業の事業計画の記載に、「高等学校支援の在り方研究教職者会議(仮)」とあるが、名前が変わったのか。
- 事務局 ・ 校長会等から意見を聞きながら検討を進めているところである。
- 委員 ・ 英語教育推進事業の事業計画に小学校、中学校、高等学校と並んで「中高一貫教育校」とあるが、その表記は適切なのか。

(企画課長説明)

基本政策ⅥからⅧについて

- 委員 ・社会教育施設の民間活用に関する表現について、意見の趣旨を踏まえて修正され、ありがたく思っている。
- 委員 ・効率的、効果的な運営という言葉はよくでてくる。その言葉は施設運営だけでなく、社会教育の振興にもかかっていると思うが、今回の表現に修正されよかった。
- 委員 ・寺子屋事業を進めていく中で、地域から期待されていることを感じている。
- 委員 ・寺子屋に参加する児童が多く、楽しみにしている。運営する方々の組織力も大切。
- 委員 ・寺子屋は学校との信頼関係が重要である。寺子屋で保護者に行ったアンケートでも学校にはお世話になった。
- 委員 ・中学生は、社会教育に主体的に参加することは少ない状況だが、社会教育施設は行事などでもお世話になっている。
- 委員 ・高校では、ボランティアに参加したりしている。また、工業施設や企業の研究所に見学に行ったりしている。
- 委員 ・特別支援学校では、プラネタリウムに行った際に字幕があり、共生社会が一步実現したように思う。
- 委員 ・子どもに自主的なことを望むことも大切だが、そこにのれない子どもへの支援も必要。

その他

- 委員 ・PTA は川崎市では、任意団体ではなく「社会教育関係団体」としているの、表現を修正してもらいたい。
- 委員 ・委員名簿について、途中で交代している委員を記載しないのか。

(企画課長説明)

平成27年度の教育委員会における取組について

- 委員 ・社会教育振興事業に「市民・行政協働・ネットワーク学習事業の実施」とあるが、これは何か。プラン計画案にも同じ記載がある。
- 事務局 ・地域の中での生涯学習活動をより活発化させるため、市民自らの手で学習や活動をコーディネートしていく人材を育成し、地域活動のネットワーク化を図ることで、様々な市民の社会参加と知縁づくりを促進することであるが、わかりやすい表現に改める。